

【事例】Aさん 70才（男性） 要介護5

ご夫婦・お子様の3人暮らし

主病：パーキンソン病

(1) ご本人（Aさん）と奥様の状況

- ・Aさんは上記主病を15年ほど前に発症し、通院にて治療していました。でも、徐々に病状が悪化し、数年前から独力では歩行・起立ができず、日常生活は全面的に介助が必要となり、通院も困難なため、現在は訪問診療を利用しています。
- ・同居している息子さんも家にいる時は介護に協力的ですが、仕事をしているため、介護の負担はほとんど奥様にかかっています。
- ・奥様は本当に献身的に介護されていますが、24時間介護の状況で、肉体的にも精神的にもかなり大変な状況になっています。



(2) 当初のご夫婦の意向

- ・当初、介護サービスは、訪問看護（看護師が計画的、定期的に自宅に訪問します）のみ利用されていました。
- ・他のサービスをケアマネが提案しても、他人の介在による介護サービスを望まれないご夫婦の意向があり、他のサービスの利用はご夫婦共に拒否され「子供と頑張ります」と頑な状況が続きました。

家族の精神的、肉体的な介護負担軽減の事例として、前回の「わかば便り」では最も一般的な介護サービスを利用した事例をご紹介いたしました。しかし実際は、他人に頼ることを望まれず介護サービス利用を拒否される方もいらっしゃいます。ご自宅での療養を無理なく心穏やかに続けていただけるように、このような場合、現場ではどのような対応を行っているか、1つの事例をご紹介したいと思います。

(3) 訪問看護師との協力によりご夫婦を説得

- ・ケアマネも訪問看護師も、毎月の訪問でご夫婦の困りごとや悩みをお聞きしている中、奥様の限界を感じるようになりました。
- ・そこで、通常はケアマネが説明し案内する介護サービスですが、最も訪問回数が多く、信頼を得ていた訪問看護師にも協力してもらい、一緒にご夫婦を説得することとなりました。
- ・何度か話をしているうちに、ご夫婦は耳を傾けてくださるようになり、ようやく訪問看護以外の介護サービスも利用されることを承諾されました。
- ・その後の介護サービス関係者との打合せや契約も慎重に行い、訪問看護師も同席のもとでサービス内容を再確認し、ようやく利用開始となりました。



(4) 介護サービス開始後の状況

- ・現在Aさんは、デイサービスを週2回程度、そして様子を見ながら1泊2日のショートステイも利用されています。
- ・それまではほとんど家で過ごし、外出はご家族の車で月1回程度の状況でしたが、外出の機会が増え家族以外の方と接する機会も増えたことで、気持ちが徐々に開放的になられていく様子を見て、ケアマネも訪問看護師もほっとしました。
- ・一方、それまで24時間介護をしていた奥様は、介護から離れる時間ができたことで、精神的にも肉体的にも負担が軽減されました。
- ・ただ、Aさんの身体状態は悪化傾向で、奥様も年齢と共に介護が大変となってきています。そこでサービス利用開始後の状況を見て、息子さんが将来の選択肢として施設入所を提案されると、ご夫婦共に納得され、奥様の将来の心配も和らいだことと思います。



<解説>

- ・介護が必要な方は介護保険により様々なサービスが受けられます。ケアマネはその方の状況により将来も見据えて必要なサービスを提案しますが、この事例のように他人の介在を拒否する方もいらっしゃいます。
- ・介護の現場は様々な医療機関や介護事業所が関わっていますが、常に情報を共有し連絡を取り合っていますので、この事例のように患者様とそのご家族のことを考えて必要に応じ協力して対応を行っています。

☆ご質問・ご相談等、
お気軽にお声掛けください。

安心を
お届けする



わかばクリニック

〒862-0903 熊本市東区若葉3-13-20
☎096-285-6014 web: wakaba-cl.jp